

6 第6回：抜き打ちテストの逆理 (2)

きょうの予定

- 抜き打ちテストの逆理についてのグループ討論
- 討論のまとめ
- 抜き打ちテストの理論化の選択肢について
- ニューカムの逆理：2つの対立する考え

6.1 ニューカムの逆理に関する2つの対立する議論

行動	B に一億	B は空
A, B を開ける	一億10万	10万
B だけ開ける	一億	0

表 1: 利得行列

6.1.1 優位性の議論

既に B に何が入っているかは既に決まっている。これからどちらの行動をとるかかどうかは、それに影響を与えない。 どちらの場合にしても、 A, B を両方開けた方が得をする。

6.1.2 期待効用の議論

予言的中率を p ($0 \leq p \leq 1$) とすると、手に入る額の期待値は

- 両方開けたとすると、

$$10 + 10000(1 - p) \quad (= 1010 \text{ if } p = 0.9).$$

- B だけ開けたとすると、

$$10000p \quad (= 9000 \text{ if } p = 0.9).$$

期待値が高いのは B だけを開ける方である。

6.2 決定論に意味があるか

「未来が現在すでに決まっている」という文に使いみちがあるだろうか。

(A-1) この真偽を問うことなどできるだろうか。

(A-2) 「未来は決まっているがそれがわからないだけである。」と「未来は決まっていない」というのとは何が違うだろうか。

(A-3) 「人知を越える存在にはわかる」は、どのような使いみちがあるか。

6.3 抜き打ちテストの逆理の理論化の選択肢

この逆理を議論するときの「理論化」には多くの選択肢がある。

(B-1) 「予告」にかかわる選択肢

(a) テストが実施されることは確かとするか否か。

(b) テストが実施されるときは予告通りであることが絶対であるとするか否か。

(c) テストが予告通りに実施された、と判断することの基準をいかに設定するか。

(B-2) 推論過程についての選択肢

(a) 生徒は推論力について万能とするか否か。

(b) 生徒はどのような推論規則を使っているとするのか。

(c) 生徒はどのようなことを推論の基盤とするか。

- 推論の結論が、推論基盤を変化させていいのか。(推論の結論が、言明の真偽値を変化させていいのか。)

- 「予告の成就」は推論の基盤となるのか。

- 「予告」の解釈も基盤となるのか。

(B-3) 先生の持つ「生徒モデル」と、生徒の持つ「先生モデル」との関係をどう設定するか。生徒の推論は、この関係についてのモデルにも依存するのか。

(B-4) 「実際に」水曜日にテストをして「予測していなかっただろう」という先生の言明の身分は何か。

6.4 宿題

決定論について考えよ。